

EY | Building a better working world

EYは、「Building a better working world ～より良い社会の構築を目指して」をパーパス(存在意義)としています。クライアント、人々、そして社会のために長期的価値を創出し、資本市場における信頼の構築に貢献します。

150カ国以上に展開するEYのチームは、データとテクノロジーの実現により信頼を提供し、クライアントの成長、変革および事業を支援します。

アシュアランス、コンサルティング、法務、ストラテジー、税務およびトランザクションの全サービスを通して、世界が直面する複雑な問題に対し優れた課題提起(better question)をすることで、新たな解決策を導きます。

EYとは、アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドのグローバルネットワークであり、単体、もしくは複数のメンバーファームを指し、各メンバーファームは法的に独立した組織です。アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドは、英国の保証有限責任会社であり、顧客サービスは提供していません。EYによる個人情報の取得・利用の方法や、データ保護に関する法令により個人情報の主体が有する権利については、ey.com/privacyをご確認ください。EYのメンバーファームは、現地の法令により禁止されている場合、法務サービスを提供することはありません。EYについて詳しくは、ey.comをご覧ください。

EY Japanについて

EY Japanは、EYの日本におけるメンバーファームの総称です。EY新日本有限責任監査法人、EY税理士法人、EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社などから構成されています。なお、各メンバーファームは法的に独立した法人です。詳しくはey.com/ja_jpをご覧ください。

© 2024 EY Japan Co., Ltd.

All Rights Reserved.

ED None

本書は一般的な参考情報の提供のみを目的に作成されており、会計、税務およびその他の専門的なアドバイスをを行うものではありません。EY Japan株式会社および他のEYメンバーファームは、皆様が本書を利用したことにより被ったいかなる損害についても、一切の責任を負いません。具体的なアドバイスが必要な場合は、個別に専門家にご相談ください。

ey.com/ja_jp

 **EY Entrepreneur
Of The Year™**

2024 Japan

EYアントレプレナー・ オブ・ザ・イヤー 2024 ジャパンのご案内

How do entrepreneurs set
the world in motion?



Celebrating the impact of visionaries who prompt global change

情熱を持って新たなイノベーションをもたらし、われわれの経済を絶えず再構築し続けるアントレプレナーたちをたたえる

アントレプレナーは、人々にとってより良い社会を構築するビジネスを創出するために必要な情熱、決断力、人格、技能の芸術的なバランスを持ち、日々の複雑な課題に立ち向かっています。

アントレプレナーは貴重で持続的なインパクトを残し後世にも語り継がれる真の傑作を生み出す芸術家のように、イノベーションを通して社会に長期的価値(Long-term value、LTV)をもたらしています。

EY アントレプレナー・オブ・ザ・イヤーとは

EYでは、Building a better working world (より良い社会の構築を目指して)というパーパス(存在意義)のもと、アントレプレナー支援を行っており、その取り組みのひとつとして、「EY Entrepreneur Of The Year™ (以下、「EY アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー」または「EOY」)」を主催しています。

EY アントレプレナー・オブ・ザ・イヤーの表彰プログラムでは、社会にインパクトを与えてきたアントレプレナーの成功までの道のりと、さらなる成長や社会課題解決のための飽くなき挑戦をたたえ、紹介しています。不屈の精神やイノベティブな思考で、社会にさまざまな価値を創出してきたアントレプレナーの素顔や情熱にあふれたストーリーに注目し、国内外に発信しています。本プログラムを通じ、人々に勇気を与え、次世代のアントレプレナーの輩出に貢献しています。

また歴代の受賞者のコミュニティを構築し、受賞後も継続的に本プログラムを通じて、国や事業領域などさまざまな環境の違いを超えたアントレプレナー同士の交流を促進しています。本コミュニティを通じて、歴代受賞者の皆さまと共に未来を探求することで、新たな価値の創出を目指しています。

世界的なアントレプレナーの表彰プログラム

EY アントレプレナー・オブ・ザ・イヤーの成り立ち



EY アントレプレナー・オブ・ザ・イヤーの表彰プログラムは1986年にEYにより創設され、米国ウィスコンシン州の都市であるミルウォーキーで始まりました。その後全米へと開催規模を拡大していく中で、現在の米国ビジネス界を代表するアントレプレナーを多数輩出してきました。そして数年のうちに世界の国々へと開催地域を広げてゆき、現在では世界約47カ国の国や地域で開催されています。



日本でも2001年より本表彰プログラムを開始し、今年で24年目を迎えます。これまでに約300名にもものぼる日本の素晴らしいアントレプレナーを多数紹介・表彰し、世界へと飛躍するための活動を奨励しています。

米国での主な受賞者

2003年	セルゲイ・ブリン	氏	グーグル
	ラリー・ページ	氏	グーグル
1997年	ジェフ・ベゾス	氏	アマゾン・ドット・コム
1991年	ハワード・シュルツ	氏	スターバックス コーヒー
1989年	マイケル・デル	氏	デルコンピュータ

歴代の日本代表

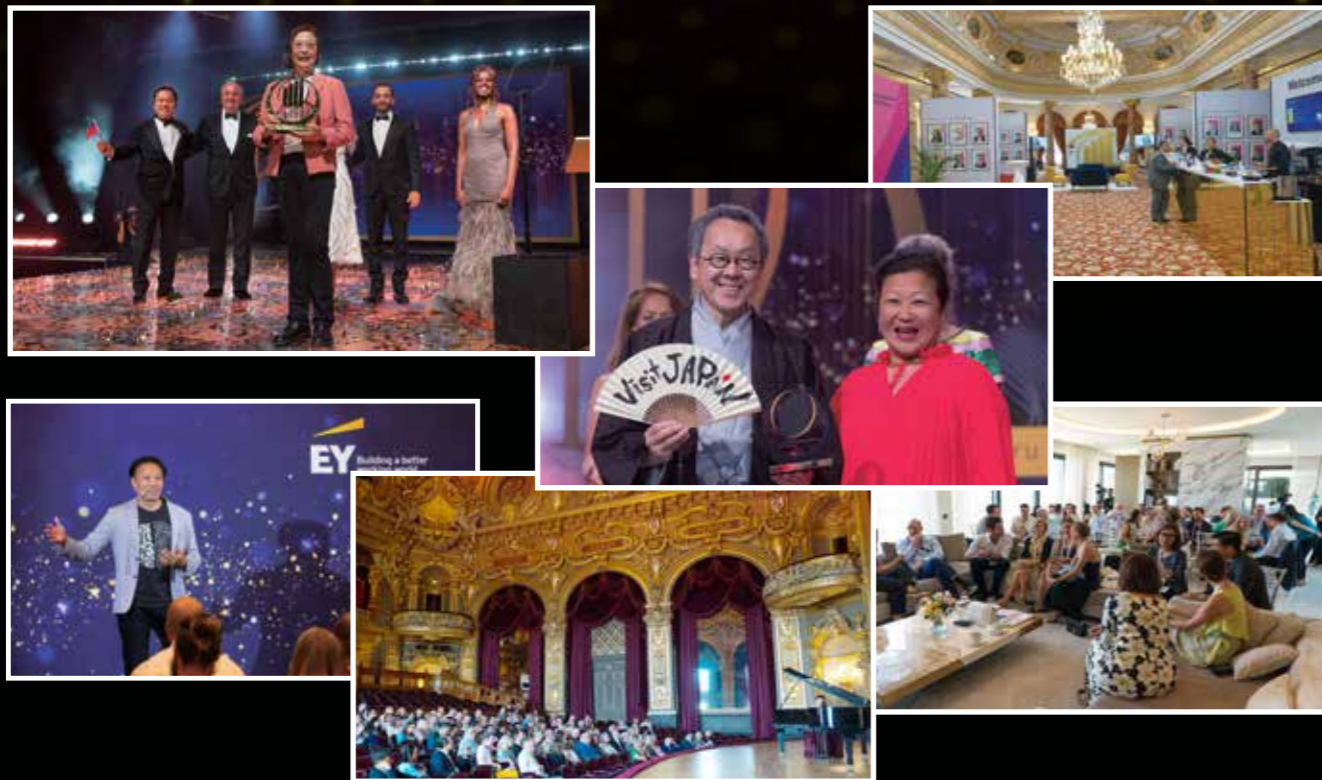
2023年	南 壮一郎 氏	ビジョナル株式会社	2012年	松村 博史 氏	医療法人徳真会グループ
2022年	星野 佳路 氏	星野リゾート	2011年	山村 章 氏	株式会社フェローテック
2021年	桜井 博志 氏	旭酒造株式会社	2010年	田中 仁 氏	株式会社ジェイアイエヌ
2020年	高島 宏平 氏	オイシックス・ラ・大地株式会社	2009年	庄司 秀樹 氏	東洋システム株式会社
2019年	窪田 規一 氏	ペプチドリーム株式会社	2008年	石橋 博良 氏	株式会社ウェザーニューズ
	菅 裕明 氏	ペプチドリーム株式会社	2007年	隣 良郎 氏	株式会社エヌ・ピー・シー
2018年	矢野 博文 氏	株式会社大創産業	2006年	鈴木 清幸 氏	株式会社アドバンス・メディア
2017年	河野 貴輝 氏	株式会社ティーケーピー	2005年	杉本 哲哉 氏	株式会社マクロミル
2016年	高岡 本州 氏	株式会社エアウィーヴ	2004年	坂本 孝 氏	ブックオフコーポレーション株式会社
2015年	筒井 宣政 氏	株式会社東海メディカルプロダクツ	2003年	石川 光久 氏	株式会社プロダクション・アイジー
2014年	佐瀬 守男 氏	株式会社ホットランド	2002年	新藤 次郎 氏	株式会社セラームテクノロジー
2013年	石川 康晴 氏	株式会社クロスカンパニー	2001年	飯塚 哲哉 氏	ザインエレクトロニクス株式会社

(社名は受賞時のものを掲載)

EY ワールド・アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー

EYでは、世界各国で社会に貢献しようと挑戦を続けるアントレプレナーたちをたたえる場として、2001年よりEY World Entrepreneur Of The Year™ (以下、「EYワールド・アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー」)を毎年6月に開催しています。世界約47カ国の国や地域より選出された代表のアントレプレナーをたたえ、「The best of the best」としてその年の世界を代表するEYワールド・アントレプレナー・オブ・ザ・イヤーのアントレプレナーが選出されます。

アントレプレナーとして共通の思いや使命を持った各国の代表が、交流をする機会も多くあります。異なる国から集まった異なる世代のアントレプレナーが、社会に新たな価値をもたらす「同志」としてたたえ合い、新たな目標を見つけ、受賞後も自国や世界のためにさらなる挑戦を続けています。



世界の“Unstoppable Innovators” EY ワールド・アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー 近年の受賞者

ドリス・シュー 氏 (2023年) 台湾代表
GlobalWafers Co., Ltd.,

“私たちアントレプレナーは、自分自身が現代の最も差し迫った課題の多くに最前線で取り組んでいることに気付かされます”

イノベーションに対する揺るぎない情熱とサステナビリティへのコミットメントを持つ、先見性あるビジネスリーダーとして、グローバルウェハズ社において、10年以上にわたり、急速な発展をけん引し、M&Aの一連の成功を統括することで同社の製品ポートフォリオを大きく変革し、事業を欧州へと拡大、同社を世界第3位の半導体ウェハ製造企業へと躍進させた。



ガストン・タラトゥータ 氏 (2022年) アルゼンチン代表
Aleph Group, Inc.

“アントレプレナーはNoという答えを受け取ることが多くあります…しかし自分のやっていることを信じ、ただ続けるだけです”

2000年代半ばよりデジタルプラットフォームの普及を高めることを目標に、インターネット・メディア・サービス (IMS) 社を創設しました。新興市場国の広告会社とデジタルプラットフォームをつなげる橋渡しをすると共に、世界のデジタルエコシステムで競争することを目指す企業のために、全ての参加者が公正かつ平等な成功の機会を得られる環境を構築しました。アレフグループ社は、市場参入において際限のない障壁に直面する企業や優秀な人材が、広告業界に参入できるようサポートを行うと同時に、デジタル広告業界を誰もがアクセスできる業界とすること、およびデジタル広告サービスが十分発展していないマーケットが世界の利用者を獲得できるようサポートしています。



ソ・ジョンジン 氏 (2021年) 韓国代表
Celltrion Group

“私にとってアントレプレナーシップとはいつでも、多くの人々を共通のビジョンに向かって団結させ、難局を機会として歓迎し、社会全体の利益に貢献することを意味してきました”

2003年にバイオ医薬品会社を設立。創業以来、自己免疫疾患やがん疾患を治療する画期的な薬剤を開発し、同社の乳がんおよびリンパ腫の治療薬は、現在世界中で使用されています。全ての人の健康と福祉を向上させるという自社のビジョンを体現しており、直近では新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の抗体治療薬の開発に成功しました。



EY ワールド・アントレプレナー・オブ・ザ・イヤーにおける歴代受賞者

2023年	ドリス・シュー 氏	GlobalWafers Co., Ltd.,	台湾代表	2011年	オリビア・ラム 氏	ハイフラックス	シンガポール代表
2022年	ガストン・タラトゥータ 氏	Aleph Group, Inc.	アルゼンチン代表	2010年	マイケル・スペンサー 氏	ICAP	英国代表
2021年	ソ・ジョンジン 氏	Celltrion Group	韓国代表	2009年	ツァオ・ダーワン 氏	フーヤオガラス	中国代表
2020年	キラン・マズムダル・シヨウ 氏	Biocon Limited	インド代表	2008年	ジャン・ポール・クローゼル 氏	アクテリオン ファーマシューティカルズ	スイス代表
2019年	ブラッド・キーウェル 氏	Uptake Technologies	米国代表	2007年	ギー・ラリベアテ 氏	シルク・ドゥ・ソレイユ	カナダ代表
2018年	ルーベンス・メニン 氏	MRV Engenharia	ブラジル代表	2006年	ビル・リンチ 氏	インベリアル・ホールディングス	南アフリカ代表
2017年	ムラッド・アル・カティブ 氏	AGTフード&イグリディエンツ	カナダ代表	2005年	ウェイン・ハイゼンガ 氏	ハイゼンガ・ホールディングス	米国代表
2016年	マニー・スタル 氏	ムース・エンタープライズ	オーストラリア代表	2004年	トニー・タン・カクティオン 氏	ジョリビー・フード・コーポレーション	フィリピン代表
2015年	モヘド・アルトラッド 氏	アルトラッド・グループ	フランス代表	2003年	ナラヤナ・マルチ 氏	インフォシス・テクノロジーズ	インド代表
2014年	ウダイ・コタック 氏	コタック・マヒンドラ銀行	インド代表	2002年	ステファン・ヴィールズマイヤー 氏	ブレイン・ラボ	ドイツ代表
2013年	ハムディ・ウルカヤ 氏	チョバーニ	米国代表	2001年	パオロ・デラ・ポルタ 氏	サエズ・ゲッターズ	イタリア代表
2012年	ジェームス・ムワンギ 氏	エクイティ銀行	ケニア代表				

(社名は受賞時のものを掲載)

アントレプレナーとしての自信が確信に変わる EY アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー・ジャパン

EY アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー・ジャパンでは、選考過程やメディアインタビュー、アワードセレモニーや歴代受賞者のコミュニティ(EOY Japan Alumni)において、アントレプレナーとしてのこれまでの道のりを振り返り、思いや熱源をさまざまな形で発信していただく機会があります。推薦人や選考委員、歴代受賞者をはじめとする本プログラムの支援者の皆さまと共に、日本の素晴らしいアントレプレナーの皆さまの自信を確信に変え、さらなる挑戦や世界への飛躍を目指します。

主なスケジュール

2024年 6~8月	<p>エントリー EYアントレプレナー・オブ・ザ・イヤー・ジャパンは、自薦・他薦、業種を問わず、アントレプレナーの皆さまのエントリーを受け付けます。</p> <p>詳細は下記サイトにてご確認ください。</p> <div style="text-align: center;">  <p>ey.com/ja_jp/entrepreneur-of-the-year-japan/eoy-2024-japan</p> </div>
2024年 10月	<p>受賞者の選出 「マスター・アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー部門」、「エクセプションナル・グロース部門」の受賞者、各地区にて「リージョナル・バイタイゼーション・リーダー部門」の受賞者の選出を行います。</p>
2024年 11月上旬	<p>受賞者の発表 「マスター・アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー部門」、「エクセプションナル・グロース部門」、および各地区から選出された「リージョナル・バイタイゼーション・リーダー部門」の受賞者を発表します。</p>
2024年11月 中旬~下旬	<p>日本代表選考委員による書類選考・インタビュー 日本代表選考委員による書類選考、およびインタビューを実施します。さまざまな困難を乗り越え、事業を成功に導いてきたアントレプレナーとしてのこれまでの道のりを振り返る場でもあります。選考委員の方々も、事業を通して社会に革新をもたらすアントレプレナーの熱い思いに共感し、熱気あふれる議論の場となります。</p>
2024年11月 下旬~12月中旬	<p>EY アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー 2024 ジャパン表彰式・日本代表の発表 EY アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー 2024 ジャパンの日本代表1組を発表します。受賞者の皆さまのお祝い会や表彰セレモニーの開催も予定しています。(詳細は確定次第、別途ご案内いたします)</p>
2025年 6月(予定)	<p>EY ワールド・アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー 2025 EYワールド・アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー 2024 ジャパンで日本代表に選出された方は、2025年に開催予定の世界大会であるEYワールド・アントレプレナー・オブ・ザ・イヤーにご参加いただけます。世界大会での表彰式や交流イベントでは、約47カ国の代表のこれまでの功績がたたえられます。世界各国の参加者との交流を通じて、世界へと飛躍するためのビジネスオポチュニティも期待できます。</p>

地区アワードセレモニー

日本の各地域でさまざまな価値を創出し、貢献されている素晴らしい受賞者をご紹介・表彰するアワードセレモニーを、全国各地で開催しています。地区代表となられた方は、日本代表候補として日本大会にご参加いただけます。



アワードセレモニー(表彰式)

アントレプレナー同士がたえ合うアワードセレモニーを開催しています。本プログラムやアントレプレナー支援者の方々もお招きし、ネットワークの構築や拡大の場でもあります。



メディアインタビュー

メディアインタビューを通して、受賞者をご紹介します。アントレプレナーとしての信念や原動力を語っていただくことで、次世代のアントレプレナーなど多くの方々に勇気と感動を与えます。

2023年はForbes JAPANによる取材が行われました。各受賞者の記事はホームページよりご覧いただけます。
ey.com/ja_jp/entrepreneur-of-the-year-japan/eoy-japan-award/eoy-japan-2023



EOY Japan Alumni

EY アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー・ジャパンでは、2019年に歴代受賞者のネットワークである「EOY Japan Alumni」を立ち上げました。受賞後も歴代受賞アントレプレナー同士の継続的な交流の場として、ビジネスセッションなどの各種イベントを開催しています。業界や世代、地域や環境の違いを超えたアントレプレナーの交流や意見交換がきっかけとなり、受賞者のコラボレーションによる新たなビジネスも生まれました。歴代受賞者の皆さまにとって、受賞後もさらなる成長や飛躍の好機となるような会を目指しています。



アントレプレナー 支援活動・取り組み EOY Japan Alumni



2022年 マスター・アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー部門 受賞(日本代表)
星野 佳路氏 星野リゾート

日本代表としてモナコで開催された世界大会に送り出させていただきました。サポートいただいた多くの皆様に深く感謝いたします。精一杯努力いたしましたが、台湾代表の優秀な女性経営者が世界トップとなりました。私のキャリアはホテル業界の中だけであり、世界は広いということを改めて実感することができました。皆さんに勤められて米国留学中の息子、星野倭山を同行させることができました。私は4代目のファミリービジネス経営者であり、最後の大事な仕事は、会社を良い状態で次の世代に引き継ぐことです。今回の機会を通じて、次の世代がグローバルな挑戦へのモチベーションを得る良い機会になったと感じています。ありがとうございます。



2021年 マスター・アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー部門 受賞(日本代表)
桜井 博志氏 旭酒造株式会社

WEQY世界大会に参加して
なんとといっても各国のEOYの代表者と一堂に会する機会を得ることは大きな財産です。そして、友情を構築することが大事とはいえ、一位を目指して、自分の事業を振り返り、もう一度分析し、基本的な考え方を再構築できたことは自分の事業である「瀬祭を造り、お客様に届けること」にとってものすごく大きな資産になりました。コロナでいったん減速したとはいえ、グローバル化が避けられない世界で、生きていく上で、自分の事業の本質が洗練され言語化される意味は本当に大きなものです。この機会を与えていただいたことを感謝いたします。



2020年 マスター・アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー部門 受賞(日本代表)
高島 宏平氏 オイシックス・ラ・大地株式会社

EOY日本代表に選んでいただいた2020年度は、当社の設立からちょうど20年。20年を迎えた会社がアントレプレナーの賞をいただけるということは、われわれにとっても良いことですが、社会やさまざまな企業経営者にとって、とても勇気をもらえることだと思っています。歴史の長さに限らずアントレプレナーシップは持ち得るものだと思っていますので、今後もそれを証明し、社会を変えていきたいと思えます。

EOYは表彰というプログラムではありますが、アントレプレナーである私たちの本来の闘いは、会社を大きくして社会を変革することにあります。これからも一緒に社会を変革する同志として楽しく前に進んでいきましょう。



2018年 マスター・アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー部門 受賞(日本代表)
矢野 博文氏 株式会社大創産業

2018年に日本代表に選ばれた時は、自分の人生を褒められたようで、うれしい気持ちになりました。モナコで開催された世界大会では到着するや否や、ホテルの部屋にこもって選考インタビュー直前まで4分間スピーチの練習を毎日幾度も繰り返しました。非常に苦労しましたが、これまでの道のりを改めて振り返ることができたのは新鮮で、良い経験となりました。モナコで出会った各国代表の経営者の皆さんの目が生き活きしていたことも、とても印象的でした。

運も能力もなかった私でも、日々一生懸命に働き、感謝の心を持ち続けてきたことで、今では1時間に1億円以上売り上げる会社に成長させることができました。これからは感謝力の時代です。日々目の前の仕事にガムシャラに向き合い、感謝することを忘れないでほしいと思います。そうすれば、5年後、10年後に大きく変えることができるかもしれません。



2018年 マスター・アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー部門 受賞
齊藤 寛氏 株式会社シャトレ・ゼホールディングス

名誉あるアントレプレナーに選んでいただき、とても光栄に思っております。さまざまな起業家の皆さまと出会い交流を深める事により、さらにパワーをいただきました。

たった4坪の焼き菓子店から始まり、「多くのお客さまに笑顔をお届けしたい。」安全・安心なお菓子づくりに取り組むこの思いは、今も変わりません。受賞を機会に、私たちは積極的に事業を展開し、コロナ禍にも関わらず、以前より売上を2倍に伸ばしました。これは、お客さまがシャトレ・ゼをご支持くださった結果だと思えます。今後は、世界のお客さまを対象に、さらなる大きな喜びの輪を広げていただくべく、まい進してまいります。



2023年 リージョナル・バイタライゼーション・リーダー部門 受賞(部門大賞)
今井 浩恵氏 株式会社シロ

私は26歳で社長となり「自分が毎日本当に使いたいものをつくる」ことを日々追求したもののづくりを長年続けてきました。コスメティックブランドSHIROは今もなお、多くのお客様に愛され、育てていただいている真っ直中です。そのような中、2023年のRegional Vitalization Leader部門大賞で私の名前が呼ばれ、大変驚きました。なぜならば、選考インタビューの面談を終え、自分が選ばれるなんて思ってもいなかったからです。しかし、これまで命をかけて本気でものづくりに取り組んできたことを素直にまっすぐにお伝えすることで、同じ企業家や専門家のみなさまへ想いと情熱が必ず届くのだと思いました。これからも、本気の活動と心を通わすコミュニケーションを通して地球を良くし、世の中をしあわせにするために邁進していきます。



2022年 リージョナル・バイタライゼーション・リーダー部門 受賞
崎谷 文雄氏 ローツェ株式会社

私は40歳で会社を創業して、既に37年経過し、現在は社長を引退して相談役をしております。そのような中「今さら、アントレプレナーも無いものだ」と思いながらエントリーシートに今まで実施してきたことを懐かしみながら、またこれまでの実績を評価頂いたことを嬉しく思いながら書きました。中国地区代表に選出され、「中国地区からは過去に数々の日本代表が選出されているので、頑張れ」と激励されて日本大会に出席することになりましたが、残念ながら代表には遠く及びませんでした。私が今まで経験した文部科学大臣表彰や内閣府からの黄綬褒章、旭日双光章とは一味違い、EOYは熱意ある起業家の方々が集まる素晴らしい場で、素晴らしい人達と意見交換できる素晴らしい会だと感じました。EOYが今後ますます発展して、素晴らしい経営者が増えて日本、世界が良くなることを祈念いたします。



2022年 リージョナル・バイタライゼーション・リーダー部門 受賞
佐藤 裕之氏 株式会社EVモーターズ・ジャパン

昨年EOYにて、Regional Vitalization Leader部門の九州地区代表に選んでいただき、大変光栄に思っております。EOYを通して、様々な企業家の皆様との交流を深める中で、感銘を受ける機会を多くいただき感謝しております。私は30年以上、インバータ制御の技術者として働き、東日本大震災をきっかけに現在の会社を2019年に創業しました。創業から多くの苦労はありましたが、「日本のバッテリー安全技術でゼロエミッション社会の実現を目指す」という創業当初の想いを胸に、カーボンニュートラル実現に向け、EVバス・EV物流車の開発・製造に邁進し続けていく所存です。



2022年 リージョナル・バイタライゼーション・リーダー部門 受賞
谷 好通氏 KeePer 技研株式会社

2022年に受賞させていただいた時は、大変驚きました。この会社は、地味な自動車のコーティング事業を営んできた会社であり、ITを駆使した最先端の会社でもなく決して華々しく活躍してきた会社でもなかったからです。

しかしこの会社は、社員一人一人が「お客様に喜んでいただきたい。」との思いを自らの意志として、お客様の車を期待以上にきれいにする事でお客様に喜んでいただき、その喜びを自らのこの上ない喜びとする「ESとCSの同時実現」を具現化することで大きく成長してきました。そんな地味で地道な活動が評価されたものと考え、アントレプレナーの懐の深さを思うと同時に、大変嬉しく思いました。



2021年 エクセブショナル・グロース部門 受賞
渋谷 修太 氏 フラー株式会社

昨年EOYにて、“Exceptional Growth 部門”と読者投票による“GREAT PASSION部門”で受賞させていただきました。故郷に戻って地域活性化に取り組む私にとって、情熱を評価していただけたのは大変うれしかったです。

私が高専(高等専門学校)時代の友人たちと創業したIT企業のフルーは創業から10年がたち、今では新潟をはじめさまざまな地域の企業や自治体のデジタル化を支援する会社へと成長しました。昨年の受賞に際して、「地方創生DXのニューリーダー」といった表現でForbes JAPANに掲載いただき、大変反響がありました。

EOYは世界的な大会であると同時に、地方にも焦点を当てているところが素晴らしいと思います。日本全国から集まるアントレプレナーと交流ができ、本当に参加して良かったと感じました。特に地方在住の起業家にこそ、応募を勧めたいです。



2021年 エクセブショナル・グロース部門 受賞
関藤 竜也 氏 株式会社クラダシ

SDGs目標達成のため誰もが気軽に参加できるサービスを目指すクラダシにとって、「EYアントレプレナー・オブ・ザ・イヤー 2021 ジャパン」の関東地区代表に選出いただいたことは、大変名誉であるとともに、ステークホルダーとのさらなる信頼関係の構築につながることでありました。

私たちは「フードロス」をはじめとしたさまざまな社会課題の解決に取り組むパイオニアとして活動を続けてまいりましたが、まだ道半ばです。これからもより多くの皆さまと力を合わせ、アントレプレナーとして課題先進国の日本から果敢に世界へとチャレンジをし続け、ミッションとして掲げている「ソーシャルグッドカンパニーでありつづける」を実現してまいります。



2020年 エクセブショナル・グロース部門 受賞
佐々木 茂喜 氏 オタフクホールディングス株式会社

広島のお好み焼は、原爆投下後の復興とともに、多くの人に食べられるようになりました。私たちは、お好み焼を笑顔と団らんを誘う、いわば平和を象徴する食べ物と考えています。またお好み焼は、世界中のどこにでもある材料で作ることができ、しかも栄養バランスのすぐれた、スーパーフードといえます。その素晴らしいさを、多くの方々にお伝えしたいと活動して参りました。

皆さまのおかげによりEOYの中国地区代表に選ばれたことで、自分たちがやってきたことに、自信が持てました。また出場に際して、自社のビジョンや方向性を再確認することができ、新たな目標に取り組むきっかけにもなりました。毎年の受賞により、EOYを通じた仲間が増えることを嬉しく思います。



2019年 エクセブショナル・グロース部門 受賞(部門大賞)
小林 りん 氏 学校法人ユナイテッド・ワールド・カレッジ ISAK ジャパン

事前にファイナリストのリストを頂戴した時、これは自分には可能性はないなあ、当日は美味しいお食事を楽しみに伺おう!と思っておりました(笑)。大賞の発表で名前を呼んで頂いた時には、心底驚くとともに、数字には必ずしも表れないかも知れない、私たちの教育事業の社会的インパクトをご評価頂けたのだと、震えるほど嬉しかったのを思い出します。また、苦労と紆余曲折の連続だった人生を振り返り、その間ずっと理解して支えてくれた家族への感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました…。EOYの名に恥じぬよう、これからも現場に安住することなく、常により高みを目指して挑戦し続けたいと思います。EOY Japan Alumniの活動を通じて、起業家の諸先輩方とお目にかかれずとも、今から楽しみです!



2019年 エクセブショナル・グロース部門 受賞
長澤 重俊 氏 株式会社はくばく

2019年に甲信越ブロック代表としてEOY全国大会に参加させて頂き2つの事に気付きました。1つはアントレプレナーとは必ずしも創業者を意味しない、という事。私はファミリー企業の3代目であり、自分の責任は事業継続だと思っていました。しかし事業継続も過去の踏襲ではなく新たな価値創造を続けていくことであり、これは正にアントレプレナーなのだ、大いに励まされました。2つ目は世界市場で勝負するという大きな志を持つということ。全国大会でお会いした起業家の方々は全員世界を本気で目指していました。今では私も世界の人の健康で豊かな食に本気で挑戦したいと思っています。



2019年 エクセブショナル・グロース部門 受賞
丸谷 智保 氏 株式会社セコマ

日本大会に参加し、各地区代表のお話をお聞きすると、やはり企業の起点は利益ではなく、「思い」であると言う事を強く感じました。社会に対する貢献と熱き思いを持って経営し、起業した事例を沢山学ぶことが出来ましたし、新たなチャレンジを続けるバイタリティーにも接することが出来ました。そもそもEOYへエントリーする事が、自分は「なんのために、どの様に」経営を実践してきたかを問い直し、整理する大変良い機会とも成りました。「思い」が同じ経営者が集まる交流の場はとても楽しく、生涯お付き合いをしたい人々であふれておりました。このような貴重な機会を提供して頂き大変感謝しております。皆さまも積極的に大会にチャレンジする事をお勧めします。



2017年 チャレンジング・スピリット部門 受賞
天沼 聰 氏 株式会社エアークローゼット

受賞させていただいた時のことは、いまでもすごくはっきりとした記憶として覚えています。サービスについての賞が多い中で、EOYは起業家個人に向けた賞で、自分自身のこれまでの努力や人間性を認めていただいたという感動がありました。それと同時に、より一層いま自分たちが行っている事業のみならず、より良い社会に向けたリーダーシップとは何か、日本という枠を超えたグローバルでのリーダーに求められるものは何かを改めて思考するきっかけをつくっていただきました。

これからも、EOY Japan Alumniなどで出会わせていただいた素晴らしい皆さまからの学びを自分の成長につなげ、より良い社会に向けた貢献ができればと思っています。1人で学ぶ以上の喜びと成長を得られること、これからも楽しみにしております!



2016年 アクセラレーティング部門 受賞(特別賞)
中村 創一郎 氏 株式会社Loop

起業をして「自分がどこにいるのか?」「自分がしていることは正しいのか?」「自分が描いている未来は本当に実現できるのか?」といったことを自問自答しました。もちろん答えは出ず、暗中模索、五里霧中という言葉がぴったり当てはまる日々を送っておりました(皆様もいまそういう日々だと思います)。

EOYに呼ばれ他の起業家の皆様と話をし「孤独なのは自分だけではなかった」ということに気づき、そして彼らと話をしている中で「あー、あの判断は間違ってた」「こういう考えもあるのか」という様々な気づきがあり、EOYは僕にとって地図となり、そしてその時に話していたメンバーはいまだに付き合い合う同志となりました。



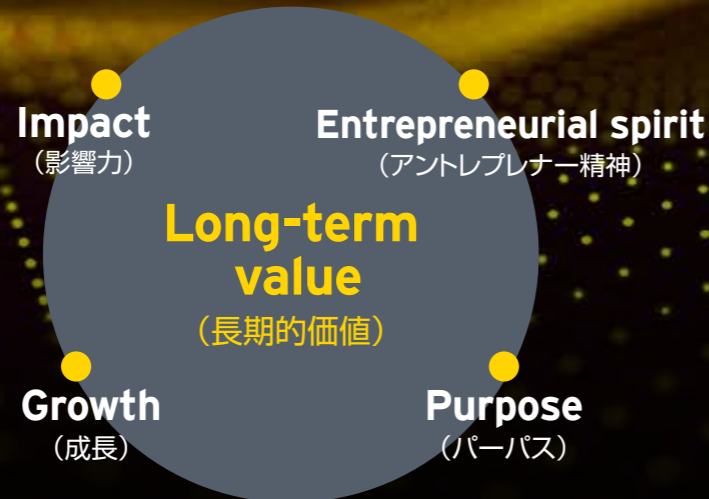
2015年 アクセラレーティング部門 受賞
山田 理恵 氏 東北電子産業株式会社

2015年に東北地区代表に選出いただき、東京でのセレモニーに参加した時のことは今でもはっきりと記憶に残っています。素晴らしい起業家の方々とお会いし、まるで別世界にいるような大きな刺激を受けました。その後のAlumniにおいても皆様のアントレプレナーシップを肌で感じ、交流ができることを大変嬉しく思いました。EOYへの参加を勧めた皆さまに御礼申し上げます。

東北で光を中心にしたものづくりを行って55年。日本の精緻なものづくりはまだまだ捨てたものではないと最近あらためて感じています。今まで培ってきた技術と最新技術を融合し、新たな分野・製品開発、地方活性化に貢献すべく更に邁進してまいります。

選考基準

アントレプレナーはいつの時代も、より良い社会の構築のために、
長期的価値を追求し、実現しています。
本プログラムの選考では、以下の項目が重視されます。



Entrepreneurial spirit (アントレプレナー精神)

- ▶ より良い社会を創造するチャンスを見極めることができる
- ▶ ビジョンを実現するためにリスクを取っている
- ▶ 大きな障害や困難を乗り越えるための勇気、不屈の精神、立ち直る力を持っている

Purpose (パーパス)

- ▶ パーパスとビジョンのために、自らと組織が全力を注いでいる
- ▶ 持続可能な将来のビジネス戦略を推進している
- ▶ ステークホルダーやエコシステム（消費者、従業員、サプライヤー、政府、コミュニティ、投資家、株主など）の全体にわたる長期的な価値を創造し、保護している

Growth (成長)

- ▶ 市場シェアを拡大し、新市場に進出している
- ▶ 高い業績を挙げている
- ▶ 多様な人材を集め、育成し、保持するために投資をしている
- ▶ 新しい手法や技術の先駆者となるようなイノベーションを生み出す組織風土を構築している

Impact (影響力)

- ▶ サービスを提供するクライアントに良い影響を及ぼしている
- ▶ 強固なコミットメントや具体的な戦略に基づき、持続可能な環境・社会・ガバナンス (ESG) を実践している
- ▶ 多角的な視点を持って、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージブネス (DE&I) を積極的に推し進めている

対象となるアントレプレナー像

社会に対して革新的な価値をもたらした全ての事業家

- ▶ 創業者
- ▶ 代々続くファミリービジネス(同族経営企業)で経営に革新をもたらした事業家
- ▶ 革新的な経営で成果を挙げた事業家
- ▶ 日本で起業した外国人事業家

など、幅広くアントレプレナーの皆さまのエントリーを受け付けております。

選考委員

過年度の受賞者や事業経験豊富な方、アントレプレナー支援に造詣が深い方々を選考委員としてお招きし、日本代表選考のご支援をいただいています。

表彰カテゴリー

3部門の中から最終的に1組の日本代表が決定されます。

EY アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー 2024 ジャパン 受賞者

Master Entrepreneur Of The Year Category マスター・アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー部門

- ▶ 業界や市場を代表する存在で、社会に長期的価値をもたらしている
- ▶ すべてのアントレプレナーのロールモデルとなる存在
- ▶ 海外で企業活動を展開し、グローバルな影響力を有する
- ▶ ビジネスモデルの競争優位性・技術力・マーケティング力が国内外で注目されている

Exceptional Growth Category エクセプションナル・グロース部門

- ▶ 事業を成功に導き、注目度が高まっている、あるいは注目されている存在
- ▶ 後進のアントレプレナーのロールモデルとなる存在
- ▶ 海外で一定の影響力を有し、さらなる展開・拡大を予定している
- ▶ 革新的な技術やビジネスモデルによって事業を展開し、成果を挙げている
- ▶ 著しい成長を遂げた、あるいは成長途上であり、今後さらなる成長が期待されるアントレプレナー

Regional Vitalization Leader Category リージョナル・バイタライゼーション・リーダー部門

- ▶ 地域で実績を挙げ、さまざまな貢献をもたらしている
- ▶ 地域発の新たな価値、唯一無二の価値などを創出し、日本や世界へ影響を及ぼしている
- ▶ 伝統とイノベーションの融合により、日本や世界に誇れる技術力やビジネスモデルを有し、持続可能な経営を実現している
- ▶ 雇用を生み出し、コミュニティと共に成長を続けることで長期的価値をもたらし、地域社会を創っている

EY アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー 2024 ジャパン 日本代表 (1組)

2023年選考委員

藤森 義明 氏(委員長)

CVCキャピタルパートナーズ日本法人 最高顧問
武田薬品工業株式会社 社外取締役
ボストン・サイエンティフィックコーポレーション 社外取締役
日本オラクル株式会社 取締役会長

河野 貴輝 氏

株式会社ディーケーピー 代表取締役社長
EY アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー 2017 ジャパン 日本代表

石井 芳明 氏

経済産業省 大臣官房参事
独立行政法人 中小企業基盤整備機構 創業・ベンチャー支援部 審議役 兼
ファンド事業部 審議役

高岡 本州 氏

株式会社エアウィーヴ 代表取締役会長 兼 社長
EY アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー 2016 ジャパン 日本代表

谷本 有香 氏

Forbes Japan 執行役員 Web編集長

各務 茂夫 氏

一般社団法人日本ベンチャー学会 会長
東京大学 大学院工学系研究科 教授

渡辺 洋行 氏

B Dash Ventures株式会社 代表取締役社長
一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会 副会長

(社名・役職は2023年度日本大会開催時のものを掲載 氏名50音順)

EY Japanのアントレプレナー支援

EY Japanのアントレプレナー表彰制度

EY アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー

表彰目的

アントレプレナーの努力と功績をたたえ、新たな事業領域に挑戦するビジネスリーダーの輩出を支援することで、より良い社会の構築と、後進のアントレプレナーの育成にも寄与することを目指しています。

対象

社会に対して革新的な価値をもたらした事業家
ey.com/ja_jp/entrepreneur-of-the-year-japan



EY Entrepreneurial Winning Women™

表彰目的

女性経営者向けにビジネスに関する情報やネットワーキングの場を提供し、専門家によるサポートを行うことで、イノベーションにあふれた女性経営者とその事業の成長を応援することを目指します。

対象

女性経営者や女性エグゼクティブ
ey.com/ja_jp/entrepreneurial-winning-women-japan



EY Innovative Startup

表彰目的

EY 新日本有限責任監査法人による主催のもと、成長性、革新性、社会性などの観点からスタートアップ企業を表彰し、知名度の向上に寄与することで、より良い社会の構築につなげることを目指しています。

対象

今後著しい成長が期待されるホットトレンド分野におけるスタートアップ企業
ey.com/ja_jp/ey-innovative-startup



Building a better working world (より良い社会の構築を目指して)

目の前の社会課題に真正面から挑み続けるとともに、時代の変化に耳を澄ませ、革新的なアイデアと実行力で新たな価値を創出するアントレプレナー。今日よりも明日の人々の暮らしを、社会を、そして世界を少しでもより良いものに変えたいという強い情熱と志は、私たちEYのパーパスであるBuilding a better working world (より良い社会の構築を目指して)と共鳴します。

EYは、表彰プログラムやメンタープログラム、ネットワーキングイベントなどの活動を通じ、長期的な視野でアントレプレナーと伴走し、成長をサポートし続けることで、より良い社会の構築に貢献していきます。

アントレプレナー支援活動・取り組み

EOY Japan Alumni

活動目的

EY アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー・ジャパン(EOY Japan) 受賞後もアントレプレナーが継続的に集う場を提供し、業種や世代を超えたアントレプレナー同士の交流により新たなビジネスチャンスが創出され、さらなる発展を遂げることで、日本の成長に寄与できるようなプログラムの運営を目指しています。

対象

これまでにEOY Japanで受賞されたアントレプレナー
ey.com/ja_jp/entrepreneur-of-the-year-japan/eoy-japan-award



Women Athletes Business Network (WABN)

活動目的

女性アスリートが競技引退後に起業を含むビジネス分野への挑戦やキャリア転換することをサポートしています。また、WABNのネットワークを通じて、多様性に富む人材を求めるビジネスニーズに応えていくことを目指しています。2022年1月より、ビジネス分野への進出やリーダーシップスキルの向上に意欲的な女性アスリートを対象にしたリーダー育成プログラム「WABNアカデミー」をスタートしました。EYの女性パートナーによる1on1メンタリングや、ビジネススキルを学ぶセッションを通じて、女性アスリートが社会で活躍するための後押しをしています。WABNは、女性アスリートとビジネス界を結び付ける役割を担っています。

対象

女性アスリート(現役・引退は問いません)
ey.com/ja_jp/entrepreneurial-winning-women-japan/women-athletes-business-network



EY Startup Innovation

活動目的

EY Startup Innovationは、会計士、税理士、弁護士、M&Aアドバイザー、戦略系コンサルタントなど、さまざまな分野においてスタートアップに精通した専門家構成されたチームです。スタートアップのみならず、事業会社、ファンド、官公庁など、スタートアップ・エコシステム全体の発展に寄与することを目指し、スタートアップ・エコシステム内で求められるさまざまなサービスを整備し、ワンストップでサービスを提供できる体制を構築しています。

対象

スタートアップ、オープンイノベーションを推進している事業会社、ファンド、官公庁など
ey.com/ja_jp/start-ups

